



PAS 6043

John Herald John Herald

一般にウッドストックを支えたのが、ディランやザ・バンドといわれているが、マッド・エイカーズ人脈のジョン・ヘラルドも忘れることが出来ない。ニューヨークの小粋なブルグラス・バンドを経て、ソロ歌手としてデビューを飾ったのが本作品。エイモス・ギャレット、マリア・マルダーなどのゲストが嬉しい。



VSCD-144

Artie Traum & Pat Alger From The Heart

あのエリック・カズの名作「ギャンプリン・マン」のカヴァーを収録したウッドストック・サウンドの埋もれた名盤。シンガー・ソングライターとして非凡な才能を後に発揮するパット・アルジャーの存在が光る作品。とは言うものの、アーティのギターも聴き所。ドリーミーでハートウォーミングなデュオが最高。



VSCD-088

Mud Acres Music Among Friends

心温まるフォーク・ロックは、アメリカのルーツ・ミュージックを深く理解したミュージシャンでなければ演じられない。本作はこうした点を実感させる傑作盤。ハッピー&アーティ、マリア・マルダー、エリック・カズ、ジョン・ヘラルド、ビル・キース&ジム・ルーニーなどが一同に集った録音。



VSCD-1396(I)

Chris Smither Don't It Drag On

白人リヴァイヴァル・ブルース歌手と、シンガー・ソングライターという二つの顔を持ち、ビートニクの香りを漂わせたのが、ウッドストック・フォーク出色の歌手、クリス・スミザーだった。ポピー・レコードに遺した傑作の1枚が本作品。マリア・マルダー、エリック・カズ、ハッピー・トラウムとの共演。



VSCD-133

Arlen Roth Hot Pickups

マッド・エイカーズが名を改め、ウッドストック・マウンテン・レビューとして再デビューした時に、ホットなストリング・ベンダー・ギターでファンを沸かせたのが、アレン・ロスという若者だった。アルバート・リー、クラレンス・ホワイトなどの悶絶ストリング・ベンダーに夢中となったファンにお奨め。



PAS 6008

Karen Dalton In My Own Time

ジャズ歌手のビリー・ホリデイを彷彿させるダミ声、レッドベリーでお馴染みの12弦ギター弾き、と異色のウッドストック・フォーク歌手がカレン・ダルトンだった。大人のフォーク・ブルース作品で、ゲストのエイモス・ギャレット、ビル・キース、ジョン・ホールなどを迎えての録音。いぶし銀のブルース傑作。



SI 5902

Rosalie Sorrels Travelin' Lady

ジャケット写真からも想像できるように、ロザリーは放浪の女性フォーク歌手。つまりランプリング・ジャック・エリオットの女性版だ。ウッドストックにもしばし逗留したようで、本作にはニューヨーク・フォークのギター逸材ミッチ・グリーンヒルと、ダン・ヒックス・バンドのシド・ページが録音に参加。



VSCD-094

Geoff Muldaur & Amos Garrett Geoff & Amos

ウッドストック系のグッド・タイム・ミュージックの名盤といえば、本作を指すファンが多い。アメリカのルーツ・ミュージックの数々を独自の解釈でうたう2人は、まさにワン&オンリーのドリーム・デュオだ。エイモスの妖艶なギターも聴き所だが、意外にもほのぼのとしたヴォーカルも侮ってはならない。